

粒剤の出穂前1回散布で 斑点米カメムシ類と穂いもちを同時防除できます

糊を吸汁して
斑点米を作ります。
水稻の重要害虫です。



斑點米カメムシ類
(アカスジカスミカメ)



水稻の重要病害です。
多発すると収量減に！

いもち病
(穂いもち)

- キラップ(エチプロール2%)を含む殺虫・殺菌混合粒剤を出穂1~2週間前に1回散布することにより、カメムシと穂いもちが同時に防除できます
- 防除作業が軽減できます
出穂前(穂いもち)と出穂後(カメムシ)、2回必要だった防除が1回に減ります！！
- 水田周辺への農薬飛散防止に有効です
- アカスジカスミカメが優占して発生する水田での使用がおすすめです

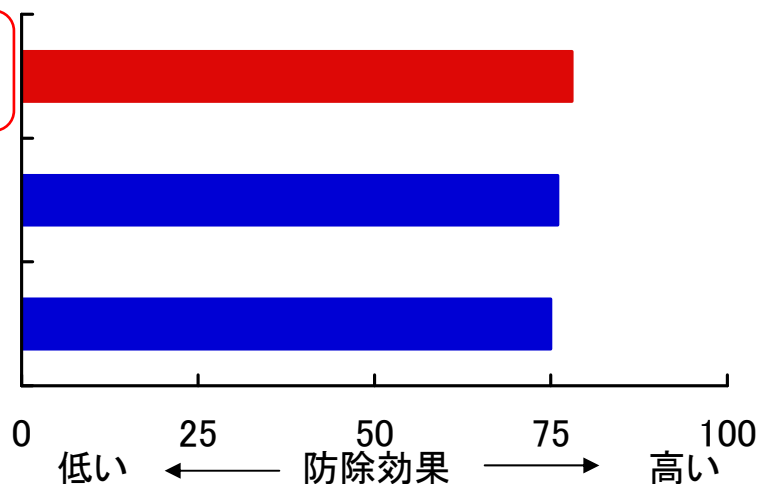
斑点米カメムシ類に対する防除効果

キラップを含む混合粒剤
出穂10日前散布

既存粉剤や
既存粒剤の
出穂後1回散布と
と同程度の効果

トレボン粉剤DL
出穂7日後散布

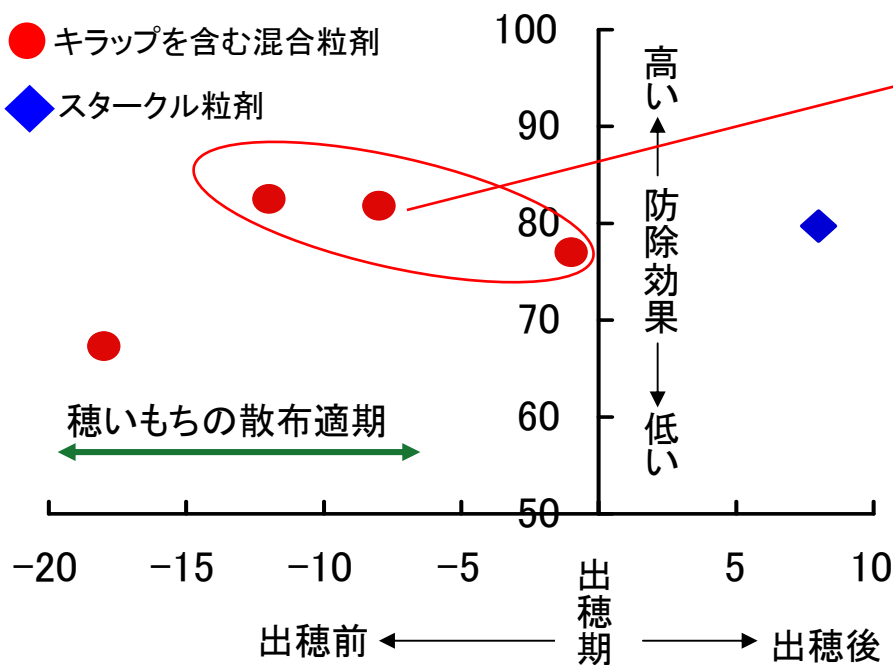
スタークル粒剤
出穂7日後散布



粒剤の散布時期と斑点米カメムシ類に対する防除効果の関係

● キラップを含む混合粒剤

◆ スタークル粒剤



出穂期～出穂2週間後の
散布によって、実用的な
効果が得られる。

出穂1～2週間前に散布
すると、穂いもちと同時防
除ができる。

注 意 事 項

- ★この技術の適用地域は、アカスジカスミカメが優占して発生するほ場です。大型の斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ等)には十分な効果が得られない(防除価30～50程度)ので、注意してください。
- ★散布に当たっては、湛水状態(水深3～5cm)で均一に散布し、少なくとも7日間は湛水状態を保って下さい。
- ★キラップ(2%)とストロビルリン系の殺菌剤が混合されている粒剤の場合、薬剤耐性菌の発生を防ぐために他のストロビルリン系薬剤を含めて年複数回の使用は避けて下さい。

問い合わせ先

鳥取県農林総合研究所 農業試験場 環境研究室

TEL:0857-53-0721/FAX:0857-53-0723/E-mail:nougyoshiken@pref.tottori.jp

本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい